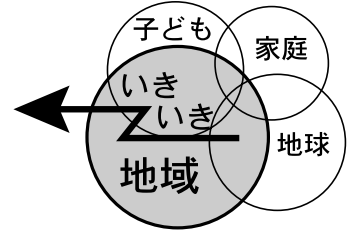




地域と協働するYMCA



＜高槻市におけるYMCAの活動（一部抜粋）＞

活動の領域	内容	実施場所	協力/後援団体
青少年健全育成	体育・サッカー活動	高槻・茨木地域	
青少年健全育成	キャンプ・野外活動	高槻・茨木地域他	後援：高槻市教育委員会青少年課
青少年健全育成	ユースバスケボール教室/指導委託	市立土室小学校	校庭開放委員会/メンバー保護者
青少年健全育成	ユースバスケボール教室/指導委託	市立阿武山中学校	校庭開放委員会/メンバー保護者
青少年健全育成	ドッジボール教室	市立高槻小学校	校庭開放委員会
地域ボランティア養成	・まち生き生きユースリーダー育成講座 ・学び舎研修会	高槻市総合センター	主催：高槻市教育委員会社会教育課
障がいを持つ人と	体育教室「けやき」	市立高槻小学校	後援：高槻市教育委員会スポーツ振興課
障がいを持つ人と	新春お餅つき	アクアピア芥川	共催：高槻ワイズメンズクラブ
放課後の居場所づくり	高槻市こども教室	市立柱本小学校	文部科学省 地域子ども教室推進事業
子育て支援	親子体操講師派遣	磐手公民館	主催：磐手公民館
地域奉仕	夏休みプール開放 リーダー派遣/着衣泳指導	市立土室・高槻・若松小学校他	PTA
地域奉仕	みどりのカーニバル/体育あそび	アクアピア芥川	主催：高槻市教育委員会青少年課
地域奉仕	高槻まつり/模擬店出店	高槻市内	主催：高槻まつり振興会
地域奉仕	高槻シティマラソン/給水係り	高槻市内	主催：高槻シティマラソン実行委員会

高槻YMCAでは、様々な地域の課題に対応したプログラムを、積極的に展開しています。そこには多くのボランティアや関係機関が共に参画し、地域で子どもを育てるために必要な課題に取り組んでいます。



高槻市子ども教室も2年目に入り、毎日子どもたちの元気な声がこだましています。昨年は、毎週水曜日、YMCAのリーダーにスポーツを教えていたとき、子どもたちは運動場で思い切り走り回り、大変満足していました。

この純真で天真爛漫な姿に振り回され、身体は大いに疲れますが、精神的にはホッとした気持ちになり、元気をもらって帰ります。

また、リーダーの子どもたちをみる目の暖かさに真の子ども教室で育むよう国が推進している事業です。このためにも地域のボランティアの力が不可欠なのです。

高槻市教育委員会社会教育課では、子育てや家庭教育の大切さを学習する「学び舎ネット」や地域活動を進めるためのボランティア人材育成にも力を入れているところですが、これらにも高槻YMCAが大変協力していただいています。これからも地域社会づくりにお力添えをお願いいたします。

高槻市教育委員会社会教育課 掛川 文子

「地域ボランティア養成」が急務

17年度

は、月々金の学校の放課後の時間帯を地域のボランティアの指導員さんが一緒に遊んでいます。(水曜日は、YMCA担当)私も、担当として毎日のように柱本小学校に出かけていきます。そこで子どもたち

の目的を感じています。この事業は、文部科学省の再委託事業で16年度から3カ年計画で全国的に展開されています。ですが、子どもたちが安心して遊べるよう、地域の大人が暖かく見守りながら、地域

成にも力を入れているところですが、これらにも高槻YMCAが大変協力していただいています。これからも地域社会づくりにお力添えをお願いいたします。

高槻市教育委員会社会教育課 掛川 文子

高槻市教育委員会社会教育課 掛川 文子

知的障がい児・者の体育教室「けやき」マツケンサンバでリズム体操も!

僕は昨年の9月から体育教室「けやき」のリーダーをしています。体育教室「けやき」とは、知的障がいを持つ人々を対象とした体育教室です。高槻YMCAでは開設以来、障がいを持つ人たちの体育教室や水泳教室を行ってまいりましたが、2年前の

ことを楽しんでもらうかというのを第一に考えながらプログラムを行っています。ランニングやマット運動、跳び箱だけでなく、流行のマツケンサンバに合わせたリズム体操を

取り入れるなど、ユニークな発想が欠かせません。高学年のクラスでは、サッカーやバスケやボールなどの球技に挑戦したりもしています。いつも変わらないリーダーの存在が安心感を生み、自然と体を動かすことに繋がっています。

これからの障がいを持つ人々がいきいきと輝ける場を目指して試行錯誤を重ねていきたいと思っています。高槻YMCAユースボランティア 辻田幸右(すけりーダー)

高槻YMCAユースボランティア 辻田幸右(すけりーダー)

異文化に触れる機会に恵まれ、本当に良かった「日米親善バスケットボール交流」のホストファミリーとして



3日間という短い期間でしたが、バスケットボールを通じて海外の人との交流をもつ機会に恵まれ、ホストファミリーを引き受けて本当に良かったと思います。ユースバスケットボールクラス・保護者 瀬古口元伸・雅代

私たちが家族は7月29日から31日までの3日間、子どもたちがバスケットでお世話になっていることもあって、日米親善バスケットボール交流でサンフランシスコから来日した日系選手をホストファミリーとして受け入れました。特に英語が話せるというわけではありませんが、子どもが成長していく中で異文化に触れることは大切だと思います。15歳の男子を受け入れることにしました。

流会では、一緒に来日していた彼のお母さんや他の選手の家族の方々とお話しする機会もあり、保護者の方や多くのボランティアリーダーが交流会の準備をされたことを聞いて感動しました。私たちはこれからも多くの子どもたちが異文化に触れ、多年齢の人との関わりの中で自信をもって成長できるように、また次世代のボランティアリーダーとして活躍してくれることを願っています。